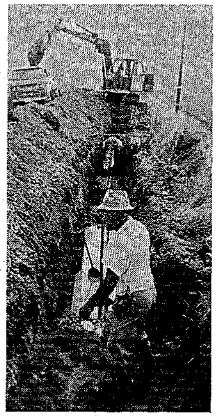
水道事業　増大する返済金財政を圧迫

水の需要増加に備え施設増備はまだまだ必要

明年の一月徴収分から水道料の値上げが決まり市民のみなさんから当市の水道事業の実態や値上げの理由などについて広く理解と協力をお願いしているところですが、引き続き今回は、この値上げに伴う赤水などの根本対策や料金の値上げ幅、それに今後の見通しなどについてご紹介してみます。

なお、水道事業のこれからの財政運営の状況を考え、収入から見た諸経費などを常識的に分析、表示（別表を参照してください）したものについても合わせてお知らせします。

◇　◇　◇



〝水の出〟良くするために進む配水本管の布設工事

悪い水の出早急に解消　赤水の根本対策も急ぐ

問　水道料を値上げしたのですから、水の出の悪いところや、赤水の出るのがなおりますか。

答　水の出の悪い地域はまだあちこちにありますが、水の出をよくするための配管工事費用を、ある程度見込みましたのでできるだけ早い時期に解消するようにします。

赤水については、いくつかの原因が重なってでているもので、簡単にはなおらず困っていますが浄水場に沈砂池を造って川ために、配水管を環状線にしたりするためのある程度の費用を見込みましたので、毎年少しずつでも解消するように根本対策を続けていきます。

また、さしあたっての水の中の鉄やマンガンを取り除くようにしたり、古くなった本管の鉄サビをとり除く工事（パイプクリーニングといいます）をしたり、管の末端にサビがたまるのを防ぐ方法として、水道管の掃除を水を流して行なうことも続けていきます。

しかし、根本的な対策を終わるには、あと数年かかるので、値上げをしたからただちに赤水がなくなるというわけにはいきませんが、せいいっぱいの努力を続けるつもりです。

経費節約で値上げ幅押える

問　経費を節約して、できるだけ値上げ幅を少なくすべきだと思いますがその点はどうなっていますか。

答　今回の料金は、昭和五十年度までの必要な経費を見積り、また昭和五十年度までの使う水の量を推計して、その水の量に費用を割りふってきめたものですが、経費の見積りを最少限度におさえて、値上げ幅を少なくしています。物価の上昇率も五%しかみていませんし、職員の数も、昭和四十一年には五十八人でしたが、現在は五十一人ですのでその数しかみておりません。また、やりたいことがまだまだあるのですが、それらもできるだけおさえて、最少限度しか見込んでいないのです。

さらに、今後の運営についても十分創意くふうをこらして、いっそう企業努力につとめます。

問　昭和五十一年になるとまた値上げをしますか

答　今回の料金は、昭和五十年度までの経費しか見込んでいませんので、昭和五十一年度からの料金をどうするかは、またその時期になって検討しなければなりません。

いまの経済状態が続き、また、水道の独立採算制がとられる限り、値上げはさけられないでしょう

水道事業は、非常に多額の金をかけて施設を造らなければならないのでその施設を造る資金を政府が補助するように新津市議会では決議をし意見書として政府や国会、各政党に今回提出しました

国民負担の公平からこれは当然なことなのであらゆる機会を通じていままでも要求してきましたが、これからも政府から補助金がくるように、市民の先頭になっていっそう運動を強めていく考えです。

問　拡張工事は終わったのですか。

答　拡張工事は、まだこれからも続けなければなりません。もっとも、市民全体の水の使用量をみながら進めていくものですが、赤水対策のための工事や、水の出の悪いところの配管などは急いでする必要があります。

これにも多額の金が必要ですが、経費を節約しながらいっそう水道施設の充実をはかります。

財政立て直しが急務　五十年度を赤字解消の目途に

別掲の各表は、水道事業の財政運営の状況を知るためにご紹介するもので、企業会計の基本的な表示から見ればちょっと変則的なところもありますが、これは専門的な見かたでなく常識的に表示したものです。

◆第一表と第二表は、経営上の収支から見た場合特別の工事や企業債（国からの借り入れた長期資金）の元利償還を考えないとある程度の剰余金が出ることがわかります。

さらに費用の中の内部留保金（原価消却費や繰延勘定消却費など）は、内部的に使用できるものです。

◆第三表は、現在なお実施しなければならない水道の改良などの工事費です。

◆第四表は、現在まで借り入れた企業債の元利返還金です。

この第三表と第四表の合計は、今後支出しなければならない額です。

◆第五表は、第三表の工事を実施するために国から借り入れる企業債と第一表、第二表の差額（ある意味における利益金）それに第一表支出費用の内部留保金で、その合計額をこれからの工事と元利償還に充当してもまだ相当の不足が生じます。

◆水道会計が赤字であると財政運営に大きな無理を生じ、また、銀行などから一時借り入れして諸経費をまかなうためにその金利の失費が大きくなってだんだんと赤字を大きくします。さらに、これからの水の需要増に備えるための施設増備・老朽施設の改良・減断水の解消・赤水対策などのための費用は、低利息でかつ長期返済がきく国からの企業債によるほかはありませんが、赤字ですと国がなかなか融資してくれませんので、どうしても財政立て直しが必要です。

◆昭和五十年度の累積赤字は二億八千二百三十五万三千円です。また、昭和四十七年度から五十年度までの水道料金収益は量水器使用料を含めて六億九千五百九十七万一千円で、その三九・七%は二億七千六百二十万円となります。

これは、きわめて単純な計算ですが、昭和五十年度までにはほぼ赤字が解消されるのです。

昭和五十年度を赤字解消の目途としたということは、この時点でいちおう第五次拡張の第一期計画が終了するので、ここで一時期をくぎろうというものです。この後の財政計画は、水道需要の増加による水道料収益の増加がどうなるのか、人件費の増加や物価のこう騰がどの程度かで考えることにしています。

第1表　（単位 千円）

		昭和46年度	47	48	49	50	47～50	
費用	業務費・総務費	30,242	32,972	35,857	39,289	43,237	151,355	
	原水費・浄水費	46,926	50,423	54,525	58,914	63,833	227,695	
	配水費・給水費	25,782	33,945	36,771	39,930	43,306	153,952	
	一時借入金利子	3,770	2,283	2,283	2,283	2,283	9,132	
	受託給水工事費	4,519	4,908	5,363	5,862	6,508	22,641	
	内部留保金	30,074	30,859	33,898	34,969	35,974	135,700	
	計	141,313	155,390	168,697	181,247	195,141	700,475	

第2表

		昭和46年度	47	48	49	50	47～50	
収入	給水収益	141,196	149,647	157,680	166,146	175,066	648,539	
	量水器使用料	10,816	11,166	11,627	12,088	12,551	47,432	
	市外給水収益	6,422	6,614	6,813	7,017	7,228	27,672	
	受託給水工事収益	5,929	7,433	8,039	8,493	9,111	33,076	
	計	164,363	174,860	184,159	193,744	203,956	756,719	
第1表と第2表の差額		23,050	19,470	15,462	12,497	8,815	56,244	大きな拡張や改良工事などを考えず、また国からの借入金（企業債）の元利償還を考えなければこれだけの剰余金が出ます。

第3表

	昭和46年度	47	48	49	50	47～50	
工事施設・資材購入	116,480	166,849	60,046	51,504	69,784	348,183	今後の拡張改良などの工事を施行するに要する費用です。

第4表

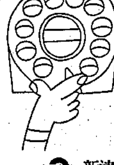
	昭和46年度	47	48	49	50	47～50	
企業債利息	56,652	62,218	61,119	71,096	71,323	526,756	今迄借り入れしまた、今後借り入れる企業債の元利償還金でどうしても必要なものです。
企業債返還	15,583	21,367	24,247	28,203	31,078	104,895	
計	72,235	83,585	85,366	99,299	102,401	370,651	
第3表と第4表の合計	188,715	250,434	145,412	150,803	172,185	718,834	今後拡張改良しながら元利償還をして行くために要する経費です。

第5表

	昭和46年度	47	48	49	50	47～50	
企業債	95,000	148,000	38,000	33,000	51,000	270,000	国から借り入れる長期資金であり、また、収益収支の残金であり、内部保留として使用できる額でありその総額です。
収支差額	23,050	19,470	15,462	12,497	8,815	56,244	
内部保留金	30,074	30,859	33,898	34,969	35,974	135,700	
計	148,124	198,329	87,360	80,466	95,789	461,944	
工事施行と元利償還額に足りない額	40,591	52,105	58,025	70,337	76,396	256,890	このままで行けば不足する額です。

掛軸仕立・襖張り替
室内装飾一式
鈴木表具店
新津市本町三丁目18番4号
電話(2)1986

NMS　公認　大型自動車科　普通自動車科
新津自動車学校
〒956　新津市山谷町二丁目　電話〔0250〕(2)1192・4963
生徒募集　昼間部　夜間部
★教習は担任指導
★夜間部は学科先行
●入校随時受付
通学にはマイクロバスをご利用ください。
入学案内無料進呈
教科書無料進呈

でんぽうでんわコーナー
ダイヤルは
指止めまで正確に
ダイヤルは戻るときにつながるようになっています。急いで無理に戻したりすることは間違いのもと。ダイヤルは間をおかずに続けて指どめまでまわしましょう。
ダイヤル市外通話でも60km（柏崎・小出・喜多方・温海以遠）をこえれば、平均4割の夜間割引があります。

新津電報電話局